

# 富山経済同友会

会報

2022.9月  
No.309



第40回海外経済視察〔起業支援施設「PIE」〕にて

## CONTENTS

- 第40回海外経済視察 ..... 2
- 7月会員定例会 ..... 4
- 【講演録】7月会員定例会（池田 弘 氏）… 4
- 同友会の日（富山GRNサンダーバース戦）… 9
- 第10回地域創生委員会 ..... 10
- 第5回人財活躍委員会 ..... 10
- ごきげんよう職場訪問（企業経営委員会）… 12
- 第8回企業経営委員会 ..... 14
- 第5回教育問題委員会 ..... 15
- 課外授業講師派遣 ..... 16
- 教育講演会等講師派遣 ..... 19
- 第1回とやま観光小委員会／アスリート支援小委員会… 22
- リレーエッセイ⑩（中川 雅弘 氏）…… 23
- 活動報告 ..... 24
- 会員の入退会 ..... 27
- 富山景気定点観測アンケート結果 ..... 31
- 今後の予定 ..... 31
- わが青春の1枚（翠田 章男 氏）…… 32

## 第40回海外経済視察

## ～オレゴン州・サンフランシスコ～

# 富山県とオレゴン州の関係促進／スタートアップ支援について学ぶ

(2022年7月31日(日)～8月7日(日))

第40回海外経済視察(麦野英順団長)は、2022年7月31日(日)～8月7日(日)の日程で米国「オレゴン・サンフランシスコ」を訪問し、総勢26名が参加した。今回は「富山県・オレゴン州友好提携30周年記念訪問団」に同行し、現地政府関係者や関係団体・企業関係者等との交流および起業家や移住者が急増している現地の取組みを視察した。〔8月3日(水)午後以降は当会独自で視察を実施〕

オレゴン州では、オレゴン日米協会やポートランド市政府への訪問、日立ハイテクアメリカやオレゴンバイオサイエンス協会との意見交換、友好提携30周年記念交流会等を通して、現地関係者との親交を深めた。また、ポートランド州立大学ビジネスアクセラレーターや現地起業家との意見交換会、起業支援施設や日本発のスタートアップ企業の視察を通して、起業しやすい環境整備や学生起業の支援策等について理解を深めた。その他ビーバートンにて世界中のアスリートに価値を提供しているナイキ社を視察するなど、世界的な企業の取組みを学ぶことができた。

サンフランシスコでは、MITSUI GLOBAL INVESTMENTを視察。ベンチャーキャピタルとしての同社の取組みやスタートアップ企業に投資する際の着眼点等について学び、その後は活発な質疑応答が行われた。また、サンフランシスコ市内では、世界中から多種多様な文化や人種が集まる個性豊かな街並みを肌で感じることができた。



ポートランド日本庭園にて

### 参加者 (26名 敬称略)

中尾 哲雄	志道経営研究所	代表	稲田 裕彦	救急薬品工業(株)	代表取締役
団 長 麦野 英順	(株)北陸銀行	特別顧問	尾城 敬郎	三菱商事(株)	北陸支店長
副 団 長 塩井 保彦	(株)広貴堂	取締役会長	川合 紀子	(有)ステップアップ	代表取締役
大橋 聡司	大高建設(株)	取締役社長	神崎 直志	三井物産(株)	理事北陸支社長
高林 幸裕	北電産業(株)	取締役社長	島田 好美	(株)島田商店	代表取締役
津嶋 春秋	(株)アーキジオ	取締役会長	宮本 一成	全日本空輸(株)	富山支店長
池田 安隆	(株)池田屋安兵衛商店	代表取締役	杉浦 孝典	(株)JTB	富山支店長
森田 弘美	(株)グループフィリア	代表取締役	西野 晴仁	(株)福見建築設計事務所	代表取締役
中沖 雄	(株)富山銀行	取締役頭取	堀井 鉄也	堀井鉄工(株)	取締役社長
松原 吉隆	大同産業(株)	取締役社長	武内 隆明	武内プレス工業(株)	専務取締役
久郷 慎治	(株)久郷一樹園	代表取締役	藤谷弦一郎	(株)OSCARホールディングス	代表取締役
浅野 雅史	(株)バロン	代表取締役	有藤 直樹	富山経済同友会	事務局長
石倉 央	(株)FP不動産センター	代表取締役	梅野 裕真	富山経済同友会	事務局次長

月 日	都 市 名	日 程
7月31日(日)	富 山 発 ポートランド着	富山 ▶ 羽田 ▶ サンフランシスコ ▶ ポートランド
8月1日(月)	ポ ー ト ラ ン ド ヒ ルズボロ	●オレゴン日米協会 (JASO) 表敬訪問 ●日立ハイテク概要説明 及び ヒルズボロ市との意見交換会 ●オレゴン・バイオサイエンス協会との意見交換会
8月2日(火)	ポ ー ト ラ ン ド ビ ー バ ー ト ン	●ポートランド市政府 訪問 ●起業支援施設 (アート・デザイン・エクスチェンジ) 視察 ●ナイキ本社 視察 ●友好提携30周年記念交流会
8月3日(水)	ポ ー ト ラ ン ド	●ポートランド州立大学ビジネス・アクセラレーターとの意見交換会 ●現地起業家との意見交換会 (昼食会) ●ポートランド日本庭園 視察 ●ポートランド美術館 視察 ●HOMMA HAUS Mount Tabor 視察
8月4日(木)	ポ ー ト ラ ン ド 発 サンフランシスコ着	● MITSUI GLOBAL INVESTMENT 視察
8月5日(金)	サンフランシスコ	●サンフランシスコ市内 視察
8月6日(土)	サンフランシスコ発	サンフランシスコ ▶ 羽田
8月7日(日)	富 山 着	羽田 ▶ 富山

【思い出の一コマ】



日米オレゴン協会にて



オレゴン・バイオサイエンス協会にて



起業支援施設 (アート・デザイン・エクスチェンジ) にて



ナイキ本社にて



友好提携 30 周年記念交流会



ポートランド州立大学ビジネス・アクセラレーターとの意見交換会



HOMMA HAUS Mount Tabor 視察



MITSUI GLOBAL INVESTMENT にて



ゴールデン・ゲート・ブリッジにて

# スポーツで地域を盛りあげよう！

池田 弘氏講演 — 7月会員定例会 —

7月会員定例会が7月27日(水)、ホテルグランテラス富山で開催され、NSGグループ会長、アルビレックス新潟取締役会長の池田弘氏が「スポーツを通じた地域活性化」と題して講演を行った。今回は文化スポーツ委員会（島田好美委員長）が主管し、会員約120名が参加した。

最初に池田氏は、スポーツによる地域活性化にはそれなりの資金が必要なことからNSGグループが中心となり地域全体で支える形をつくらうと考え、スポーツで活躍できる若者の因子を残すべく開志国際高校、新潟医療福祉大学を設立するに至った経緯を説明した。そして卒業生等ゆかりの選手が全国レベル、オリンピック等で活躍するなど成果をあげたこと、さらにアメリカンフットボールチーム、Xリーグ所属「ディアーズ」の経営権を取得し10年以内に胎内市へ完全移行する構想を発表したことに触れ、DX活用による収益拡大の実績について語った。

また、子どもの運動能力を心配する父兄が多いことから、子どもたちに色々な種目を体験させやりたいスポーツを見つけ出し継続させる仕組みづくりのため、オールアルビレックススポーツクラブを開設。さらに、スポーツ強化の高校、大学と連携し、首都圏に負けない魅力あるカリキュラムを構築し数々の実績をあげていると解説した。

スポーツを支えるためには、良い企業に大口ではなく、ご縁のある企業で薄く広く支える仕組みづくりが大事とし、そのことが日本国内トップレベルの地域活性化に繋がると強調した。そして、スポーツの効用としてアスリートの高い能力はビジネスに通用し、個性あるアスリートが色々な形で地域に残り、地域を支える仕組みが重要と説いた。そして、そうした人たちの雇用こそが地域活性化に繋がると講演を締めくくった。

## 7月会員定例会（2022.7.27）講演録

# 「スポーツを通じた地域活性化」

講師：NSGグループ会長／(株)アルビレックス新潟 取締役会長 池田 弘 氏



### (プロフィール)

NSGグループ会長、学校法人新潟総合学園総長・理事長、アルビレックス新潟取締役会長。34校の専門学校、大学院大学、大学、高等学校、学習塾などの教育機関と、病院や高齢者入所施設などの医療・福祉機関、さらに、専門教材・資格検定事業や、商社、広告代理店、建設業、ゴルフ場、ホテル、アパレル、IT・ソフトウェア、給食、飲食、起業支援、コンサルティングなどの110法人からなるNSGグループを創業し、現在は会長を務める。アルビレックス新潟の初代社長として、地域密着型のビジネスモデルによるチーム運営で、屈指の観客動員を誇る人気チームに育てる。現在は起業支援に力を入れており、501社の上場並み企業の立ち上げと育成を目指す起業支援プロジェクトに取り組んでいる。日本ニュービジネス協議会連合会会長。新潟経済同友会特別幹事。

◆ 活性化への戦略 ～トピックと併せて  
スポーツによる地域活性化への戦略ということで、まずはサッカーチームですが、新潟には、

富山のYKKや北陸電力のような強い企業チームがありませんでした。それなりのお金がかかることもありましたが、私どもNSGグループが

## KOUENROKU

中心になって地域全体で支える形をつくろうと  
考えました。

また、優秀なアスリートたちは、中学で活躍  
すると首都圏等の高校に、高校であれば大学や  
企業に根こそぎスカウトされていきます。それ  
ではスポーツで活躍できる若者の因子が新潟に  
残りませんので、全国レベルへの強化を図り、  
開志国際高校や新潟医療福祉大学などをつくる  
ことにしました。

そのかいもあり、卒業生等ゆかりの選手が東  
京五輪や北京五輪で活躍しました。例えば、ブ  
ダペストの世界水泳選手権（今年6月）で銀メ  
ダルの水沼尚輝選手は、高校時代は無名の選手  
でしたが、他県から新潟医療福祉大学に来て強  
化・サポートされることで伸び、その後、同大  
職員として大学に残り、社会人として五輪選手  
となりました。

また、2週間ほど前ですが、NSGグループ  
がアメリカンフットボールチーム、Xリーグ所  
属「ディアーズ」の経営権を取得し、10年以内  
を目安にした胎内市への完全移行構想を発表し  
ました。なぜ日本海側の小さな町にと疑問を持  
たれそうですが、これはアメフトを通じた胎内  
市活性化プロジェクトなのです。

胎内市には、私どもの開志国際高校、新潟食  
料農業大学の開校をご支援いただきました。ラ  
グビー部が全国レベルで活躍するようになりま  
したが、今度はアメフトにチャレンジです。一  
方で、ディアーズは大企業の鹿島建設が設立し、  
直近ではLIXILがメインスポンサーでしたが、  
実業団クラブがどんどん閉鎖していく流れ  
の中で、ご縁ができたのです。

サッカーJ2、アルビレックス新潟は前半戦  
を首位で折り返しました。今年はJ1に行きた  
いところですが、昨シーズンはコロナ禍にも関わ  
らず、J1も含めてリーグ戦日本一の観客動員  
を記録しました。

収益が約23億円あり、約2億5,000万の黒字と  
なりましたが、その背景にあったのはDXです。



SNSで16万人が登録、そのうち8,000人が有料  
で約3,000万円を売り上げており、この二、三  
年で急激に伸びています。そこから観客動員が  
少しずつ上がり、グッズも売れ始めて収益に影  
響した形です。また、NFT、デジタル社会にお  
けるスポーツの映像権や商標権の登録が非常に  
しやすいのではないかとということでアプローチ  
をいただいています。いろんな産業がDX化する  
中で、その戦略を打っていく必要があります。

#### ◆ 地域密着型のモデル

##### ～12のアルビレックス

地域密着型のビジネスモデルとして、12のアル  
ビレックスがあります。サッカーでは、Jリ  
ーグのアルビレックス新潟のほかに、レディー  
ス、シンガポール、バルセロナというチーム。  
バスケットボールでは、男子の新潟アルビレ  
ックスBBは大和証券、女子のBBラビッツはJ  
ALから、廃部となったチームをそれぞれ引き  
受けました。各チーム・クラブの運営会社は独  
立採算制です。

サッカーはアジアが強くなっており、以  
前、コンサドーレ札幌がタイの三浦知良のよう  
なスター選手を入団させたことで、スポンサー  
を獲得したり、映像も含めて、タイとのビジネ  
スコミュニケーションが始まりました。対して、  
私どもはシンガポールにチームを持っているの  
がポイントで、うちを経由してアジアに日本の  
選手が行っています。アジアのネットワークの  
広がりによってチャンスを見だし、Jリーグの映像



権の橋渡しなど様々なチャレンジをしています。十数年前にシンガポールに拠点をつくったことで、いろんな意味でコミュニケーションができています。

アルビレックスグループの始まりは、地域リーグの立ちはだかる壁であった強豪のYKK、北陸電力を破り全国リーグへ行き、そこでも勝ってJリーグに参加できたことです。今はNSGが筆頭株主ですが、最初は地域の皆さん30社で1,000万ずつ出していただきました。しかし、途中で経営が厳しく、増資に応えいただくことも困難となり、私が個人の資産からも出資してチームの経営責任者のような形に結果的になりました。

ランニングクラブ（陸上競技）では、新潟シティマラソンの運営を受託したことで、コロナ前ですが、約6,000人だった出場者数を1万2千人に増やして収益を上げ、行政と分配しました。また、大学スポーツを中心に、アメリカ同様、アマチュアが練習着などにスポンサー企業名を入れてもいい規約となったことで、マネタイズできる可能性が出てきましたので、企業と大学を仲介する広告代理店のエージェント業務まで行っています。

実業団チームの廃部が相次ぐ中、高校・大学出のアスリートたちの活躍する場がどんどん減少しました。大学スポーツをもっと活性化して、アメリカのように、スポーツビジネスが形成される巨大なマーケットに近づけたいと考えます。その辺も折に触れて発言させていただいたこと

で、社会の規制、縦割りだった協会や学生スポーツの壁が少しずつ取り払われ、独自で採算が取れるような仕組みになりつつあります。

新潟アルビレックスBBは、サッカーのように地域で支援いただける仕組みがくれるのなら、バスケットでも可能ではないかと、2000年に発足しました。サッカーとは異なり、高校にバスケット部は多かったので、ベースはあったのです。

大和証券から譲渡を受け、日本初のプロリーグ「bjリーグ」立ち上げの中心になりました。ラビッツはJALから譲渡を受けて、Wリーグで頑張っております。

ランニングクラブでは、ジュニアから大人まで約600名のクラブ員が在籍し、会費をいただいてトップ選手と一緒に走ったり、マラソンのボランティア参加などの仕組みづくりをしながら運営しています。育成していた久保倉里美さんは北京五輪に出場し、400メートルのハードルで日本人女性初の準決勝進出を果たしました。県外の出身ですが、引退後はアルビレックスの指導者として残ることになりました。

もう一つのテーマが、こうした引退選手のキャリアです。従来は、新潟に埋め込んでいくことは困難でした。実業団チームでやってきた人がその企業に残ってスポーツに関わる人はほんの一部ですが、意外にも、その企業に残って役員になる形は散見されます。エネルギーがあり、壁を乗り越えてきた強化スポーツ選手がビジネスで活躍しているケースは結構あるのです。

企業がUターンやIターンで若者の雇用に努力されるのであれば、地域活性化の中、スポーツでその人たちを新潟に埋め込んで活躍できる場をつくり上げていくこと、つまり強化スポーツのルートで人材を採用していく方法があります。

チームアルビレックスですが、スノーボードは富田せなさんが北京五輪のハーフパイプで銅メダル。トリノ五輪等で活躍した藤森由香さんは、北京五輪の解説者としてNHKに出演しま

## KOUENROKU

した。

レーシングチームも胎内市にあります。さきのアメフト同様に、なぜ新潟なのかということ。中小企業基盤整備機構が県と開発した土地を購入、活用して国内最大級のカートサーキットをつくったのですが、新潟には自動車産業の部品の一部を提供する会社が数多くあります。しかし、日本の基幹産業の割には、愛知のように、新潟には提供先の企業群はありません。また、本格的なサーキットも日本海側には見られなかったこと、加えて私どもが自動車の専門学校を運営していたことから、象徴的なスピードパークをつくり、そして大会を誘致しながら、レーシングチームを立ち上げ、F3などに参加させる仕組みをつくったのです。

チアリーダーも日本で初めてプロ化しました。チアリーダーズも別会社として独立した運営を行い、これも黒字です。サッカーやバスケの試合に参加することで料金をいただきます。このベースはスクールで、新潟県内で今約800人います。バレエスクールのように発表会をしたり、企業の新年会などに出演させていただき、地方のエンターテインメント団体の一つとしても認識いただいている感じです。大学や専門学校の学生たちもメンバーにおり、アルバイトの機会にもなっています。

多くの子どもたちがサッカーやバスケの試合に出演してくれますと、おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さんが見に来てくれます。来場者が増え、チケット販売に繋がりますし、何より華やかです。これも戦略の一つです。

オールアルビレックススポーツクラブですが、雪国で「スポーツ不毛の地」と言われる新潟で、スポーツの活性化を図り、幼児で基礎体力をつけた後にいろんな種目を体験して、自分のやりたいスポーツを見つけ、継続できる仕組みをつくらうと設立されました。

そのベースは子どもたちの運動能力向上ですが、複数種目の指導が受けられるマルチスポー

ツスクールとして展開しています。子どもの運動能力を心配されるご父兄は多く、新潟のみならず県外での導入要望を受け、フランチャイズ的な活動も進めています。

#### ◆ スポーツ強化の理由と効果

##### ～2つの大学・高校

スポーツに強い大学が新潟にはなかったこと、またスカウトされるような選手が新潟に残れる仕組みづくりが必要な事から、新潟医療福祉大学で強化スポーツに取り組み始めました。

陸上競技部では男子円盤投げでの全国大会優勝など、首都圏の高校で上位の選手をリストアップして強化指定で入学してもらうという事に取り組みした結果、こうした実績も出てきました。

箱根駅伝は100回目の節目で予選会の全国化が決まりました。少しずつ地方の大学にも開かれていく中で、地方でも首都圏の大学に勝てるチームをつくれる可能性が出ます。実業団の選手や競技の指導者になれる憧れのルートを地方の大学でも実現できるよう、色々な競技の強化を進めています。

実は、すごい副次効果も出ています。スポーツ科学、体育、健康科学、およびその関連分野（リハビリテーション科学を含む）での科研費新規採択件数が早稲田大と並んで全国4位となったのです。また、スポーツ庁の全国で一機関だけが採択される「女性アスリートの課題解決実践型プログラム」にも選ばれ、その分野でトップレベルにあることが示されていますが、これらの実績に伴い、研究者である教員の公募に対する倍率も跳ね上がっています。

もう一つの大学が新潟食料農業大学です。新潟は農業県と言われますが、実は生産性は全国でも低いほうです。米作で補助金頼みになっていたため、後継者不在の問題も出ています。生産性を上げるためには、米だけではなく、果物や園芸など付加価値の高い作物生産し、ブランディングし、輸出につなげる仕組みが必要です。



全国トップレベルだった農業生産高は、ピーク時の約4,000億円以上から、今や4割近く減らしています。こうした状況を変えること、そして新潟に根付いた大学をつくらうということで新潟食料農業大学を開学しました。学生募集の戦略として発信力を高めるために、主に新潟医療福祉大学で行っていないスポーツを強化しており、定員の充足はうまくいき始めています。

あわせて、高等学校として、開志学園高校と開志国際高校の2校があります。開志学園には女子の硬式野球部があり、昨春の全国選抜大会で優勝しました。競技人口はそれほど多くありませんが、硬式野球のプレーを望む女子生徒が県外から集まってきます。メディアでクローズアップされて人気が出たり、これから全国的に高校や中学が強化を進める中で、指導者になる道もできてきます。

開志学園は通信制の高校ですが、スクーリングもあります。単位を全て通信で取得するオンラインコースもあります。あとはスポーツや文化などの個性を伸ばす選択フィールドを設け、さらに人間教育も強化しています。県外から、学歴というよりは、自分の夢を追ってきているわけで、継続には相当な精神力が必要です。

専門学校のJAPANサッカーカレッジもあり、卒業生の多くがJリーグのスタッフ、全国のクラブチームに就職します。全国唯一の審判コースがあり、Jリーグと連携しながら男女ともに養成しています。サッカーの試合は全国的にありますので、当然職場としての可能性もたくさ

んあります。

もう一つの高校・開志国際ですが、ゴルフ部は全国大会での優勝者を出すなど好成績を収め、高橋彩華らのプロを輩出しています。特に隣接する橿形ゴルフ倶楽部がNSGグループのゴルフ場なので、ゴルフ場のある高校として発信力があります。バスケットボール部は、千葉ジェッツ・日本代表のポイントガード・富樫勇樹選手の父親ですが、新発田市の中学校を全国優勝に導いた経験もあるこの方が高校の総監督を務め、創部5年目の2018年には男子がインターハイを制しました。

#### ◆ 薄く広く支える仕組みを

##### ～事業開始の契機

私は、新潟の繁華街・古町通りの一角にある古くからあるお宮の息子で、今も神主です。商店街の皆さんに支えられていましたが、閉めるお店が次第に増えたので、経済的にお宮の存続を危ぶみました。継ぐ頃は、人口の県外流出も激しさを増した時期でした。そこで、お宮を支える仕組みとして事業を起こし始めたのです。

つまり、そのエリア、そして新潟の活性化、地方創生を進める必要を感じたことが契機の1つ目です。2つ目は、お宮が成り立つ寄附をしてもらえるような企業を地域につくっていくこと。3つ目は、プロスポーツが大都市にしかないのは不自然で、サッカーのJリーグは地方密着であり、地域に必ずスポーツクラブがあることを地方創生の概念として学んだことです。

共和制で、国内における地域性が明確な欧州の国では、地域対地域の戦いになります。バルセロナがいい例ですが、チームづくりの上で、広く薄く地域の皆さんで後援会をつくって支援をしているので、10万人のスタジアムが常時埋まり、シーズンパスも取り合いになるほど売れます。残念ながら、今日本にそういうチームはありませんが、アルビレックス新潟は一時期、シーズンパスの入手が困難なこともありました。

## KOUENROKU

地方創生への貢献を実現するため、総合型スポーツクラブとして、地域の人々がスポーツをすることはもちろん、4万2,300席のスタジアムを超満員にして、シーズンパスがなかなか入手できないところまで持っていったらいいと思います。

スポーツを支えるために、約200社にスポンサーをお願いしました。地域発の企業の力では、新潟より富山のほうが多分上だと感じます。いい企業があるから大口にはなく、それとご縁のある企業の皆さんで薄く広く支える仕組みをつくれば、スポーツにより、日本でもトップレベルの地域活性化が行えます。

スポーツの効用は、雇用の場として人を呼べ、地域が活性化します。首都圏のチームとも戦えることで、「おらがまち」でまとまることにより、地域がつながっていきます。以前は、首都圏で新潟の名前を出したくないという人もいたのですが、アルビレックスの活躍によって、「あのオレ

ンジの、燃えるサッカーチームがある新潟」と胸を張って話せたという方もいました。アメリカカンファットボールXリーグのチームが新潟にあるのが面白いのも、そういうことに繋がります。

また、いろんな形でセカンドキャリアの支援も行っています。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

カエルの子はカエルというように、アスリートの子どもは、筋肉や骨格、センスなどがある程度受け継ぐと思います。環境もあると思いますが、アスリートが持つそういうものを地域に埋め込んでいくこと。アスリートの高い能力はビジネスにも通用するのではないかと考えていますので、個性あるアスリートたちが地域にいろんな形で残ることは絶対に必要です。大都市や大企業はそれで成り立っているとも感じますので、意識的に地方でそういう仕組みをつくり、そうした人たちが雇用できるようになればいいと思います。

## 勝利を祈って心一つに応援 — 「同友会の日」富山GRNサンダーバーズ応援 —

8月28日(日)、文化スポーツ委員会(島田好美委員長)は地元プロスポーツチームを応援する「同友会の日」を開催し、県営富山野球場において富山GRNサンダーバーズ対福井ネクサスエレファントの試合を観戦した。

当日は、曇り空の中、麦野英順・牧田和樹代表幹事をはじめ会員・会員企業の従業員やその家族を合わせ約60名の応援で観戦した。

試合前には島田委員長の挨拶が行われ、富山経済同友会の「同友会の日」が11年目を迎えたことを紹介し、「両チームともに活気溢れる試合をお願いしたい。

みんなで応援して地元プロスポーツを盛り上げていきましょう」と語



島田委員長挨拶

った。

試合は2点を追う七回、安打と四球で1死一、二塁の好機をつくると、7番吉本光甫選手が2点二塁打で追いついた。3-3で引き分け、順位は4チーム中2位をキープした。



試合観戦

# 地域の食と可能性を探る

## ～ 第10回地域創生委員会 富山ワイン調査 ～

第10回地域創生委員会（山本覚委員長）は富山県産のワイン調査のため、県内ワイナリー視察を2回に分けて実施し、7月14日(木)は19名、8月3日(水)は11名の会員が参加した。

山本委員長から「年度末の提言に向けた地域における食文化の観点からしっかりと調査したい」とし、視察に臨んだ。

### Says Farm（氷見市）

Says Farmでは、氷見でしか出来ない北陸が生む「美しい」ワイン造りを目指し、除草剤を使用しないことや、必要最低限の農薬となるよ



7月14日、(株)T-MARKS 山崎製造部長からの解説

う、循環しながら自然と人が共生できる農園づくりに取り組んできた」と解説を受けた。視察後は、美味しいワインと、海に近い里山ならではの自然素材にこだわったランチを堪能した。

### トレボー株式会社視察（南砺市）

トレボー(株)では代表取締役社長の中山安治氏から立野原でワインづくりを始めた契機や、製造工程について解説いただいた。



8月3日、熱い想いを語る  
トレボー(株)中山社長

中山社長は、ワインづくりを通じた、立野原コート・ドール構想について、立野原を「果実の郷」として、地域の人たちの交流拠点とすることや、新たに立野原で農業や小さな事業をする人の支援を通して地域貢献をしたいという想いを熱く語った。

富山のワイナリーが有する魅力と可能性が見えた視察となり、委員からは雨量が多く、ブドウ栽培が難しい県内で、情熱と信念を持って栽培に挑戦・工夫を重ねるワイナリーの取組みを称賛する声が寄せられた。

# 関係人口の創出に向けて

## ～ 第5回人財活躍委員会 ～

第5回人財活躍委員会（浅林孝志委員長）が7月26日(火)にとやま自遊館で開催され、『北陸地域における域外人材活用』をテーマに講演会を実施した。



浅林委員長

まずは、『ワーケーションを呼び水とした関係人口の創出に向けて～ワーケーションの概況と地方自治体・地域への要望～』※と題して（公社）経済同友会 会員業務部マネジャー 宇佐見俊彦氏に講演いただいた。

宇佐見氏はまず、コロナ禍やライフスタイルの多様化に伴い働き方が大きく変容し、企業経営の視点からも、多様な働き方を推進することが重要だと訴えた。一方、地方創生の観点から、関係人口の創出に期待が寄せられているワーケーションについては、認知率は上がっているものの、導入率や経験率は依然として低い水準にとどまっていると指摘した。

続いて、（公社）経済同友会で取組んだ全国各地でのワーケーション実証実験の結果を基に、ワーケーションのメリットや課題について言及。実証実験参加者の約9割が訪れた地域を再訪したいと回答し、関係人口創出への効果が伺える



(公社) 経済同友会 宇佐見 俊彦 氏

一方で、仕事の生産性については必ずしも向上するとは言えない結果となり、ワークスペースの充実や企業人事部門の心理的安全性の担保が課題であると述べた。

最後に宇佐見氏は、地方自治体や地域に対して「呼び込むターゲット層の明確化と勝ちパターン（ストーリー）の設定」、経営者・企業に対して「ワーケーションの理解醸成と率先垂範」や「ワーケーションの制度化や運用ルールづくり」といった点を要望するとともに、ワーケーションに限らず、エデュケーションやコミュニケーションといったワーケーションが持つ様々な可能性を提示し、講演を締めくくった。

続いて『北陸地域における「新しい人材シェア」のあり方～富山型ワーケーションのすすめ～』と題して(株)日本政策投資銀行 北陸支店 副調査役 宮原史英子氏に講演いただいた。

宮原氏は冒頭、北陸地域の人口減少について言及。人口流出などの社会減よりも自然減の方が圧倒的に多い点に触れ、移住・定住という観点も重要だが、そもそも人口は減少していくという前提で、地域に必要な人材を確保し、経済を維持発展させていく、という観点が必要であると訴えた。また、そのためには域内のみではなく域外の人材にも目を向け、人の移動は前提とせず、人材が持つナレッジをシェアする「新しい人材シェア」が鍵になると述べた。

また、関係人口については「人口の流出」と捉えがちだった進学や就職等で域外へ転出した



(株)日本政策投資銀行 宮原 史英子 氏

人であっても、「北陸の関係人口」と捉え、地域のことを発信したり、ナレッジを提供し続けることで、地域との関わりの想いを繋いでおくことができると主張した。

その後、域外人材を活用した北陸企業の事例を紹介し、こういった取組みを経て得たナレッジを地域や自社内へ落とし込むことが、多様性の基盤を向上させ、持続的成長を促すと語った。

最後に宮原氏は、地域課題をも観光資源と捉えて域外人材を呼び込み、得たナレッジを地域の内在的・自立的な発展に繋げることがワーケーションにとっても重要であると述べ、講演を終えた。

最後に『地域課題で外部人材を惹きつける～富山県高岡市の取組み事例～』と題して高岡市 未来政策部 企画課 副課長 吉本恭子氏に講演いただいた。

吉本氏はまず高岡市の地域課題は、伝統産業の事業所数や販売額等が減少し、職人の技術が途絶えたり、ブランド力が低下していくことであると説明した。

続いて、域外人材を活用してこれらの課題を解決すべく企画した、外部のクリエイターと繋がるためのプロジェクト「Creators Meets TAKAOKA 2020」を紹介。このプロジェクトは、高岡の伝統産業の職人・工房と都市部のクリエイターとをマッチングし、協働制作によって伝統工芸に新たな価値を付加する取組みであり、主な成果としては、製品が実際に販売に至ったことやクリエイターのSNS上の記事投稿がもたらす広報効果などがあったと説明した。

最後に吉本氏は、こうした経験の積み重ねで、地域全体の意識が変化していくことに期待をしていると述べ、講演を締めくくった。

その後は活発な質疑応答がなされ、委員会は盛会のうちに終了した。

※ワーケーション…「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語。観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方であり、関係人口の創出に期待がされている。



高岡市未来政策部 吉本 恭子 氏

# 安全・品質・生産性向上への取組み

## ～ 第10回ごきげんよう職場訪問（広島・山口）～

7月28日(木)～29日(金)、企業経営委員会（伊勢徹委員長）は第10回ごきげんよう職場訪問（県外視察）を開催し、12名の委員が参加した。

### 【1日目：広島】

#### <マツダミュージアム>

1日目はマツダミュージアムを見学した。

マツダミュージアムでは、まずは、マツダの礎を築いた松田重次郎の生い立ちから、現在の国際的な自動車メーカーに成長するまでのマツダの歴史を、当時を象徴するマツダのヒストリックカーを眺めながら順を追って見学した。

次に、人を第一に考えるマツダの「モノ造り精神」の説明を受けた。車のつくり方をゼロから見直した「モノ造り革新」（=多様な



商品タイムリーに提供しながら、大量生産したケースと同様の適正なコストを実現する取り組み)。これまでは各部門で車種ごとに企画や開発を行っていたが、「モノ造り革新」により、向こう5～10年スパンで発売する全商品を一括で企画し、車のベースとなるプラットフォームなどの共通する固定要素と、個性を出す変動要素を明確化したうえで、多様な製品を同じプロセスで開発・生産できるように工夫。あわせて、「フレキシブル生産構想」で多様な製品にも対応する混流

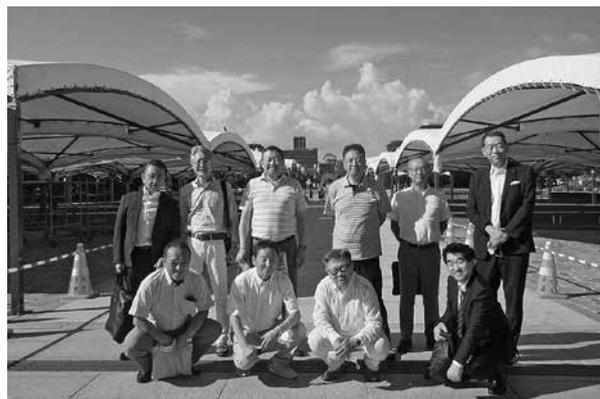
ラインを並べ、ライン間や工場間での変動にも対応。高効率な生産を実現しているという。



ロードスターと記念撮影

最後に、ミュージアムに隣接する宇品第一工場において、ロードスター、CX30、MX30などの複数車種が混流生産方式により実際に組み立てられている様子を見学した。

マツダミュージアム見学後には、広島平和記念資料館を訪れた。平和の尊さと核兵器の恐ろしさについて改めて考える機会となった。



平和記念公園にて

### 【2日目：山口】

#### <日立製作所笠戸事業所>

2日目の午前、日立製作所笠戸事業所を訪れた。

まず、日立製作所笠戸事業所の歴史や、鉄道車両の製造工程について説明を受けた。



日立製作所笠戸事業所は1921年創立。創立以来100年にわたり、鉄道車両の製作に携わり、現在に至るまで、新幹線に代表される高速車両、毎日の通勤の足として都市圏の交通を支える通勤車両、都市交通システムのモノレール車両など、幅広い鉄道車両を製作してきた。2007年に日本の鉄道車両メーカーとして初めて英国向けに車両を製作したことを契機に近年はグローバル展開も行っているとのこと。

鉄道車両の製造は、構体製作→艤装→検査の流れで行われる。構体は、アルミニウムを接合

し、台枠、妻、側、屋根を製作し、これらを接合し電車の形を形成する。

次の艤装工程では、配管・配線、様々な機能を担う部品の取付けを行う。カーテンレール方式、配管・配線作業のアウトワ



500系新幹線と記念撮影

ーク化、天井の作業は車両を反転させて行う、など作業効率の向上に取り組んでいる。SQC（安全、品質、納期、原価）の考え方を大切にし、安全に配慮しながらも、品質・生産性の向上に努めており、各種ロボットの活用や未来に向けたDXにも取り組んでいる。

次の検査工程では、各種機能の確認を念入りに行う。厳しい検査を終えた車両は、鉄道輸送や海上輸送などにより送り出される。

説明を受けた後、構体の製作、部品の取付け、塗装など、普段目にするのでできない貴重な製造現場を視察した。笠戸事業所の視察は、2020年に企画したが、新型コロナウイルスの影響で延期に延期を重ねていた。今回は会員企業の協力により、2年越しの悲願を叶えることができた。

## <旭酒造>

2日目の午後は、「獺祭」の蔵元、旭酒造(株)を訪れた。

旭酒造では、12階建て本社ビルの4階から10階で酒の製造を行っている。その酒造りの各工程を、社員の説明を受けながら視察した。

洗米の工程は、機械を使えば人手や時間を大幅に削減できるが、最新型の機械を使っても、米の微妙な吸水率はコントロールできないため、人の手で洗っている。水分を吸った米はもろく割れやすい。割れると麴の入り方に影響してしまうため、地味な工程だが疎かにできない。

洗米、蒸しの工程を経た米は、仕込みの段階に移る。タンクの中に、酵母と水と麴と米を入れて仕込む。一回でタンク一杯に仕込むこともできるが、そうすると酵母が増える前に雑菌の方が増えてしまう可能性があるため、数回に分

けて徐々に米と麴と水を足しながら仕込みを行っている。この工程では、毎朝各タンクのサンプルを取り、その日のアル



仕込み工程の見学

コール度数や米の溶け方、アミノ酸量などを計測する。そのデータを折れ線グラフにして分析室の壁に掲示し、社員で共有しながら、目指す目標数値に近づけるべく、それぞれのタンクに最適な温度となるよう調整し、厳密な温度管理を行っている。

旭酒造には杜氏がない。お酒を造れるのは数人だけという状況を作り出さないよう、データによる管理を徹底している。



データによる管理の徹底

見学する中で特に目立ったのが、若い社員の多さ。社員の平均年齢は30歳に満たないとのこと。優秀な若手人材を確保するため、初任給の引き上げ（初任給約30万円）も行っており、全国から酒造りを志す若者が集まってきているという。

2日間にわたる今回の視察は、どの視察先でも時間が足りないくらい活発な質疑応答がなされ、非常に熱量の高い充実した内容となった。



獺祭ストア本社蔵前にて

# SDGs への実践報告

## — 第8回企業経営委員会 —

第8回企業経営委員会(伊勢徹委員長)を8月23日(火)、ホテルグランテラス富山で開催し、委員45名が参加した。

富山県成長戦略室戦略企画課長島田太樹氏による「富山県SDGs宣言」の制度概要の説明の後、SDGs宣言をしている会員企業3社(山田工業(株)代表取締役社長 山田恵子氏、北陸ココロラボトリング(株)代表取締役専務浅野弘昭氏、(株)富山銀行取締役頭取 中沖雄氏)による事例発表を行った。



島田課長

山田社長は、昨年度の当委員会のSDGs講演会が取組みの契機となったと述べた。そして、自社の事業で環境問題に貢献する「事業分野の取組み」を第一とし、それを支える土台としての「環境保全への取組み(省エネ・エコドライブ・グリーン調達など)」と「職場環境への取組み(多様性の尊重、働き方改革)」の3つを優先的に実施すべき取組みとして位置付けていると語った。



山田社長

浅野専務は、自社の経営ビジョン「消費者、顧客、地域社会に愛され、信頼され、身近で魅力あふれる企業を目指す」は、SDGsに通ずると



浅野専務

ころが多いと語った。そして、2030年にすべてのPETボトルを100%サステイナブル素材に切り替えるという目標を立て達成を目指していること、環境美化活動を通じた地域貢献活動を

行っていることなど、自社で行っている様々な取組みを紹介した。

中沖頭取は、SDGsに取り組むことは自行の最重要テーマであるが、誰のために何をするのが行内で議論になった。その中で出てきた「職



中沖頭取

員が働きがいを感じないと良いサービスは提供できない。職員が働きがいを感じることで良い提案ができ、顧客が満足し、地域が活性化し、株主に利益還元できる。この好循環をつくるのが大切。」という考えをもとに、職員をステークホルダーと位置付け、頭取を委員長とし、公募による多様な職員で構成された組織横断的なプロジェクトチームを立ち上げてSDGs施策を検討したと語った。



取組みの契機や取組内容は3社で異なるが、SDGsを経営理念や経営戦略と結び付けて取り組んでいること、取組みのメリットとして、企業イメージの向上、社員のモチベーションアップを挙げた点が3社に共通していた。

# 県教育委員会との意見交換会

## ～ 第5回教育問題委員会 ～

8月25日(木)、富山県農協会館において、第5回教育問題委員会(高瀬幸忠委員長)として「県教育委員会との意見交換会」を開催。委員17名、県教育委員会から7名が出席し、「(1)小中高生のキャリア教育について」と「(2)教職員の研修について」の2つをテーマに意見交換を行った。

意見交換会は、前期提言の実践として昨年度から実施している。昨年度は提言とそれに



関連する県事業について総論的に意見交換を行ったが、2年目となる今年度は、より掘り下げた意見交換ができるようテーマを絞り込んだ。

### (1)小中高生のキャリア教育について

社会に学ぶ「14歳の挑戦」、社会へ羽ばたく「17歳の挑戦」をはじめとする小中高生向けのキャリア教育について意見交換を行った。

委員からは、「職業的価値観が多様化しており、事業効果の検証が必要な時期が来ているのではないか」「受け入れ先



企業と、送り出す学校側とで、事業の目的者趣旨をしっかりとすり合わせる必要がある」「14歳の挑戦は事後のフォローアップをするとより効果的ではないか」などの意見が出た。

### (2)教職員の研修について

教員を大学・企業等へ2～3カ月間研修する内地留学制度や、11年目の教員が2日間、民間企業等で社会体験を行う体験型研修など、民間企業が関わる研修について、意見交換を行った。委員からは「異業種交流の機会は貴重だが、2～3カ月では短く、最低でも6カ月程度必要ではないか」などの意見が出た。



## 科学の世界へ！

### ～ 小学生の親子がインテックビルを見学 ～

令和4年8月20日(土)、「親子でチャレンジ小学生ワクワク体験教室」(主催：富山県教育委員会)が開催された。このイベントは、小学校5～6年生の親子を対象に今年度初めて企画されたもので、県内各地から11組23名の親子が参加した。

参加者は、県総合教育センターで科学工作・実験(クリ



ップモーターの製作)に取り組んだ後、モーターが実際の技術に応用されている現場を見学するため、インテックビルを訪れた。

インテックビルでは、(株)スカイインテック(高瀬幸忠取締役社長)の社員から説明を受

けながら、スカイホールの座席の壁面格納やステージ昇降、ロボット掃除機など、モーターが使われているさまざまな設備を見学した。

普段は目にすることができない設備の裏側に、子どもたちは目を輝かせていた。見学後

の質疑応答の時間では、「このビルで一番大きなモーターは?」「一番高いモーターは?」など、子どもたちから多くの質問の声上がり、盛況のうちに終了した。



スカイホール座席の壁面収納



ロボット掃除機に興味津々

# 仕事を通じた社会貢献

## — 課外授業講師派遣 —

### 第7回 富山県立富山商業高等学校

令和4年7月13日(水)、富山県立富山商業高等学校において3学年273名に対して、石橋隆二氏(株石橋代表取締役)、市森友明氏(株新日本コンサルタント取締役社長)、碓井一平氏(Labore株代表取締役)、福崎秀樹氏(株フクール代表取締役)、牧真奈美氏(株クルサー代表取締役)、森弘吉氏(株エムダイヤ代表取締役)、遊道義則氏(株ユニオンランチ取締役社長)の7氏が「社会貢献としての仕事、社会人にとって必要な能力・資質」をテーマに課外授業を行った。

#### <石橋 隆二 氏 (株石橋代表取締役)>

石橋代表は、まず、「社会貢献としての仕事」について、社会貢献とは社会のためになるということ。どんな仕事でも、今世の中にあるということは、社会から必要とされていることであり、社会のためになっていると述べた。

そして、生徒たちに何のために働くかを尋ねた。「生活のため」という声が上がったが、石橋代表は、「生活のためだけにしょうがなく働くと、働いている時間が辛い時間になってしまう。何のために働くのかを考えてほしい」と投げかけた。

石橋代表自身も昔は自分の生活のため、お金のために働くのだと考えていたが、それでは社員がついて来なかった。そのような中、盛和塾の稲盛和夫氏からの「嘘でもいいから社員の幸せのためだと自分に言い聞かせよ、3年経つまで我慢して自分に言い聞かせよ」との助言に従ったところ、いつの間にか「自分のため」という思いが消え、本心から「社員の幸せのため」と思えるようになり、結果として、社員が働くことに前向きになり、会社の利益が上がったと語った。

次に、「仕事や人生の成功は、『能力×熱意×考え方』の3つの掛け算で決まる。」との稲盛氏の言葉を紹介し、「能力や熱意はプラスしかないが、考え方にはマイナスがある。能力や熱意があっても、考え方がマイナスだと成功しない。考え方はプラス1でもいい。プラス1から2にどうやって考え方を変えるかが大事で、それを分かっているならば、人生や仕事の成功に結び付く。」と説いた。

最後に、富商の先輩として、「富商生には気骨がある。富商の指導は厳しいが、この厳しさは社会に出た時に必ず役に立つ素晴らしい財産だと思って、これからの人生をスタートしてほしい」とエールを送り、授業を締めくくった。



#### <市森 友明 氏 (株新日本コンサルタント取締役社長)>

市森社長は、冒頭、仕事とは社会価値と経済価値の両方を生み出す行為であると述べた。そして、社会価値とは、社会に必要であること、社会を良くすることであり、経済価値とは、仕事や生活を続けるためのお金を得ることであるとしたりうえて、「社会に出る際に、自分が就く仕事、自分が入る会社がどのような社会価値を生み出しているのかをよく考えてほしい」と説いた。

続けて、地域社会の課題を解決するような社会価値が高い仕事は経済価値も高く、回るお金の量とスピードが増える。回るお金の量とスピードが増えると、地域社会が活性化する。地域社会が活性化すると、域外からの投資が増え、地域がさらに活性化し、定住人口が増えるという好循環が生まれると述べた。

次に、働くうえで学習が必要な理由を2つ挙げた。1つ目は、「仕事を実践する上で、最低限必要な学力や知識を身に付けるため」とし、2つ目は、「よく学習した人と、普通に学習をした人とは、仕事の選択の幅が違う。学習をするかしないかは個人の自由だが、学習することで将来がイメージできて、来るべき選択の時に備えることができる。社会価値の高い仕事は社会貢献の技術や技能が必要だから、ベースとしてある程度の学習が必要。天才になる必要はないが、努力が必要」と述べた。

最後に、努力の時間と成長の関係について、「努力をすると最初に少し成長するが、その後ずっと停滞期があり、成長の壁にぶつかる。それでも努力し続け、成長の壁を越える、ブレイクスルーすると、大きく成長できる。成長の壁を越えるまで努力できるかが重要。ブレイクスルーはいつやってくるかはわからない。突然やってくるということを覚えていると、成長の実感がない停滞期にあっても諦めずに努力し続けることができるこれを覚えておいてほしい」と強調し、授業を締めくくった。



### <碓井 一平 氏 Labore (株)代表取締役>

碓井代表は、はじめに、自身の経歴を紹介した。碓井代表は、大学卒業後、親族の会社に入社し、その後社長になった。給料面の待遇は非常に良かったが、仕事の内容に興味を持てなかったため、全てを捨てて起業した。報酬の面では親族の会社の社長時代の方が圧倒的に良かったが、好きな仕事をしている今の方が充実しており、起業したことを全く後悔していないと語った。

次に、日本は、他の先進国と比べて、開業率が低いという事実を紹介したうえで、その原因は、「起業には失敗、リスクがつきものだが、日本には失敗をたたき、成功してもリスクとしないという特有の風土がある。チャレンジした先には必ず失敗か成功が待っているが、成功したら嫌味を言われ、失敗したら叩かれる。これは最悪で、これだと誰もチャレンジしない。是非変えてほしい」と述べた。

続いて、ムーブメントの起こし方を説明した。ムーブメントの発端には、周りからは奇異と思われる行動をとる最初の一人がいるが、それだけではムーブメントにつながらない。最初の一人に対し、僕も手伝うよと手を差し伸べる人「フォロワー」が必要だと語った。

そして、自身が起業した際の最大のフォロワーは妻だとし、親族の会社を辞める際、「収入は？生活は？子どもたちはどうするの？」とは一言も言わず、ニコニコして「これから何する？」と後押ししてくれたと起業時のエピソードを紹介した。

最後に、「起業家を目指す人は出てくるが、フォロワーを目指す人はものすごく少ないし、実際にフォロワーになれる人はさらに少ない。今、起業家を目指しましょうと盛んに言われている。起業家は確かに面白いし、やりがいがある。皆さんには、起業家は面白そうだと思ってもらいたいが、そうじゃなくても、フォロワーになってほしい。」と熱く語り、講義を締めくくった。



### <福崎 秀樹 氏 (株)フクール代表取締役>

福崎代表は、冒頭、自己紹介の中で、江戸時代の儒学者山鹿素行の名言「常の勝敗は現在なり」を座右の銘として紹介し、「人は今しか生きられず、今の一瞬一瞬が自分の未来を作っていく。今をどう生きるかが大切だ」と述べた。

次に、異常気象による自然災害、新型コロナウイルス、ロシアのウクライナ侵攻などを挙げたうえで、「私たちが今生きている時代は、『確実なことは何もない』ということだけが確実な、不確実な時代。何が起きてもおかしくない時代であることを認識してほしい」と強調した。

続いて、科学技術が指数関数的に進歩し、年々そのスピードが速くなっていることを説明したうえで、「2030年には今ある仕事の半分はコンピュータ・AIで代替できてしまう」「2011年度に小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就く」という話を紹介した。

そして、今までの時代は、言われたことを波風立てずにやるのが求められたが、これからの時代で大切なのは、知識や技術の有無ではなく、人間だけが持っている人間的な能力だとし、「どれだけ人に優しくできるか、どれだけ好奇心を持って探求できるかが大事。そのためには、読書して多くの言葉に触れ、考える能力を磨くこと、人とたくさん関わり合い、ぶつかり合って強さと優しさを身に付けることが必要」と説いた。

最後に、「『おいしいものを食べる』と『おいしく食べる』は違う。『おいしく食べる』は自分の心次第。それと同じで、将来どんな仕事に就きたいかいろいろと考えるかもしれないが、その時に何をするか、何を思うかは自分で決められる。人生は自在。自分が今できることに最善を尽くすことだけが、未来を切り開いていくことにつながる。そして、みんながそういう生き方をすることで社会が良くなっていく。100年後の子どもたちに輝く日本を残したい」と熱く語り授業を締めくくった。



### <牧 真奈美氏 (株)クルサー代表取締役>

牧代表は、はじめに、人は社会の中で生きていく限りは、一人では生きられず、社会の一員として誰かの役に立つことが必要と述べた。そして、人生で多くの時間を仕事に費やすことになるが、その時間を文句を言いながら過ごすか、夢や目標を追いかけてワクワクしながら過ごすかは自分の考え次第で変わってくると語った。

それから、好きなことと得意なことのどちらが仕事に向いているだろうかと問いかけた。牧代表は親の勧めで選んだ看護師の仕事は、最初は自分に合わないと思っていたが、成功体験をしてやりがいを感じるようになり、たくさん患者から「ありがとう」とお礼を言われるうちにこんないい仕事はないと感じるようになったことを紹介し、「自分に向いてないと思っても、やってみたら面白いこともある。これからどう変わるかは自分次第。人は変わりたいと思ったときから変わる。自分の可能性を信じ、自分の可能性を潰さないで欲しい。」と述べた。

次に、人生の主演は自分だとし、「自分の生き方は納得のいくまで考えてみるのが大切」「自分の良さには気付きにくいですが、過去の自分より今の自分が成長していたら自分を褒めて自己肯定感を高めてほしい。すると多少の失敗にもめげずに前向きに生きられる」と述べた。

続いて、働くときに必要な能力として、コミュニケーション能力を挙げ、「相手と自分の価値観は違うので、相手に伝わる言葉で伝えることが大切」「人はその人自身が変わりたいと思ったときにしか変わらないので、他人を変えることはできない。相手を変えようとするのではなく、自分の受けとめ方を変えると人間関係のストレスが減る。」とアドバイスした。

最後に、「皆さんはまだまだ若い。無限の可能性に溢れている。自分を大切にして、自分らしく生きてほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



#### <森 弘吉 氏 (株)エムダイヤ代表取締役>

森代表は、はじめに、海外出張先で目にした、日本ではあり得ない光景の数々を写真で紹介しながら、「自分の中の常識は世界の常識と違うかもしれないと意識して欲しい。これから社会に出ていくときに、他人や他国の常識や考え方を互いに認め合うことが、とても大切になる」と説いた。

次に、「究極の幸せ」と「素晴らしい人」とはどのようなものを語った。

まず、「究極の幸せ」とは、「人に褒められること、人の役に立つこと、人に必要とされること、そして人に愛されること」である。自分がどう幸せかではなく、相手がどう幸せになってくれるか、相手の役に立つことが、究極の幸せであるとした。

それから、「素晴らしい人」とは、「功は人に譲れ、恩は胸に刻め、そして憎は水に流せ」ができる人。自分が成功しても、手柄を自分のものにはせず、お蔭様でという気持ちで人に感謝する。誰かに何かをしてもらったときは、恩を胸に刻んで、感謝の気持ちを持つ。時には腹を立てて憎むこともあるが、なるべく水に流す、こんな人になりたいと語った。

続けて、自身が日頃から心掛けている考え方をいくつか紹介した。そのうちの1つが、信頼関係を築くこと。「信用」と「信頼」は似た言葉だが、「信用」は過去の実績に基づいて信じること、「信頼」は未来に向けて根拠なく頼ることだと自身は定義しているとしたうえで、「信用よりも信頼が大事。過去の実績で信用を得て、信頼される人になってほしい」と述べた。

最後に、「成功の反対は失敗ではなく、何もやらないこと。失敗の先に成功がある」「知識と経験の両輪で知恵が生まれる。この知恵を最大限生かし、生涯学びだと考え、素直な心で臨んでほしい」と激励し、授業を締めくくった。



#### <遊道 義則 氏 (株)ユニオンランチ取締役社長>

遊道社長は、はじめに、言葉の大切さについて説いた。フランスス・ベーコンの言葉、「われわれは『自分が言葉を統御している』と考えているが、しかし、われわれが『言葉によって支配され統御されている』のである」を紹介したうえで、「『将来何になりたいか』と聞かれたら、『〇〇になれたらいい』という答え方と『〇〇になる』という答え方があるが、後者のように前向きに言い切ることで、目標の実現に近づくことができる。この先進路を決めるとき、いろいろと人に相談することもあるだろうが、最後は自分で決めることになる。『なりたい』ではなく、『なる』と言い切してほしい」と語った。

次に、生きるということ、人生とは何か？について自身の考えを2つ述べた。

1つ目は、人生は選択の連続であるとし、「この先、いろいろなことを選択しなければならず、選択に迷うかもしれないが、失敗を恐れる必要はない。振り返ってみて、『こっちを選んで良かった』と良い意味づけができるかが重要。そのように考えるよう習慣づける努力をしなければならない。」と述べた。

2つ目として、「自分の一度きりの人生なので、積極的に変化（成長）すべき。」と述べた。そして、自分を卑下せず自分の可能性を信じ、今の自分に満足することなく、様々なことにチャレンジすることで成長できると語った。

そして、人生において一番大事なことは、「やる」ことだと説いた。必要なことは、「すぐにやる、何でもやる、できるまでやる」。やらないとせっかくの機会を逃してしまうし、やったことから得られる経験は大きいと語った。

最後に、「自分の人生、自分が自分の人生に何をしてあげられるかを考える。誰かが、運が自分に何かをしてくれるわけではない。自分自身しか頼りになる人はいないと腹をくくってほしい」と激励して授業を終えた。



## 経営者から学ぶ危機管理

### 高瀬幸忠氏が小・中・県立学校 3 年次校長研修会で講演

令和4年7月28日(木)、高瀬幸忠氏(株スカイインテック取締役社長)が小・中・県立学校3年次校長研修会(富山県教育委員会主催)にて、受講者33名を対象に「経営者の危機管理」と題して講演を行った。

高瀬社長は、冒頭、徒然草の109段「高名の木登り」を引き、「目まいがするぐらい危ない枝に立ってれば、怖くて自分で気をつける。だから何も言うことはない。事故は安全な場所で気が緩んだときにこそ起こる。精通者は気の緩みを指摘する」と説明したうえで、自身の会社でも事故の大半はこのケースであり徒然草の時代と変わらないと述べた。

次に、経営者として危機管理に関し日頃から取り組んでいること、心掛けていることを紹介した。

1つ目は、エスカレーション。よくない報告ほど速やかに伝わる仕組みを構築することが経営上最も大切であると説いた。その理由として、早く相談が上がってくことで、トップがアドバイスしたり、応援を差し向けたりして、部門や担当者任せではなく、全社で対応することができるようになると説明した。

2つ目は、ひとり仕事をなくすこと。ひとり仕

事の現場では、病欠者が出ると納期遅れにつながってしまう。ひとり仕事を失くそうとすると、「この人しかできない、人手が足りない、効率が悪くなる」と現場は反発するが、ひとり仕事をしている社員は思うように休暇もとれない。ひとり仕事をなくすにはコストはかかるが、なくすよう取り組んだ結果、誰かがカバーできるようになるという本来の目的に加えて、各人にとっても職域が広がるという副次効果が生じたと述べた。

3つ目は、人材育成。グループ内で起きたインシデントをすぐに社員研修のケーススタディの材料として社員間で共有し、社員教育を行っているを紹介した。

最後に、「危機が起きた際に、被害を最小限にとどめることは狭義の危機管理。大切なのは、平素からリスク管理を行い、それによってリスクを最小化することである。リスクを最小化する策としては、時間が掛かるが、最も効果を発揮するのが人材育成である。人材は放ったらかしにすると在るだけの人『人在』になってしまうのでぜひとも気を付けていただきたい」と強調し、講演を締めくくった。



## 私の仕事は自分の仕事をなくすこと～期待以上の話を聞かせてもらおう喜び～

### 高林幸裕氏が富山県教育委員会 県立学校校長研修会で講演

令和4年8月23日(火)、高林幸裕氏(北電産業(株)取締役社長)が県立学校校長研修会(富山県教育委員会主催)にて、受講者61名を対象に「私の仕事は自分の仕事をなくすこと～期待以上の話を聞かせてもらおう喜び～」と題して講演し、北電産業の社長に就任してからの2年間で取り組んできた改革について語った。

高林社長は、北陸電力での39年の勤務を経て、2年前から北電産業社長となった。電気事業法による規制がある電力会社と違い、北電産業は不動産、人材派遣、介護福祉、原子力など、定款上何でも取り組める会社。折しも、コロナ禍の社長就任。社会が大きく変化する中、知恵を絞れば大きなチャンスになるが、このチャンスを活かさない会社は取り残される、何をやってもいいのだから、新規事業に取り組み事業拡大を図る必要があると考えた。

同時に、定年まであと数年となり、「自分の仕事をなくすこと」の必要性を痛感していた。元ラグビー日本代表HCのエディ・ジョーンズ氏が、「各ポジションのリーダーが自ら判断する必要がある。自ら判断し牽引しないと成長ができない。選手自らが考え行動することが大切である。私の仕事は自分の仕事をなくすこと。それができれば選手たちで問題を解決することができるから。」

と語ったように、社員一人一人が、状況を見極め、機動的に対応策を検討していけるようになってほしいと考えた。

そのような思いから始めたのが、メルマガを用いた全社員とのやり取りによる改革。社長就任後すぐに、全社員に「やれたらいいな。でも〇〇だから無理かな？」と諦めていることとその解決策を問うたところ、数多くの社員から、様々な意見、赤裸々な思いが寄せられた。

それらを集約したものを全社員に示したうえで、「会社を変えてやろう」と思う社員を募り、集まった有志メンバーを中心に全社員を巻き込みながら、会社のありたい姿とそれを実現するための課題について議論を重ね、最終的に「『めざす会社像』実現に向けたアクションプラン」として取りまとめた。今はそのアクションプランをもとに、四半期毎に進捗確認をしながら実現に向け取り組んでいる。

そうやって改革に取り組んできたところ、社員自らが続々と新規事業を企画・提案し、チャレンジするようになった。期待した以上の話、嬉しいニュースを聞かせてもらおう喜びを日々感じていると述べ、講演を締めくくった。



# 次世代を担う教員へのメッセージ

## 富山市中堅教諭等資質向上研修で講演



### <高松 重信 氏>

高松支店長は、はじめに、人材育成について考える前に、時代背景の変化を認識する必要があると述べた。

1989年の世界時価総額ランキングでは上位

20社中14社が日本企業だったが、現在のランキングには日本企業が上位にいないことを紹介したうえで、「30年前は上場企業に入社すると、すなわち世界のトップ企業に入ったという意識があったが、今では見る影もない。年功序列による画一的、直線的なキャリアの時代は終わり、人によって歩む道が複線化、多様化する時代となった。時代の変化が速くなり、仕事を取り巻く環境変化に伴い、必要なスキルも大幅に変化しており、絶えず、『学びなおし(リスキリング)』が必要になっている」と語った。

続いて、みずほ証券の様々な人材育成の取組みを紹介した。資格試験にかかる教材費や受験料等の費用を会社が支援する制度、幅広い職務の中から自

ら希望する職務に挑戦できるジョブ公募制度など、様々な人材育成のフレームがあるが、会社からの押し付けは一切なく、全て社員の自主性に委ねられていると説明した。

次に、高松支店長が人材育成で大切にしていることとして、①大義、②地元紙、③読書の3つを挙げた。「仕事というものは正しくあるべきだと思う。仕事に大義を持つことで、ビジョンを持って仕事に臨むことができ、また、若手社員の離職防止にも繋がるため、部下一人一人と面談し、仕事の大義を明確にしてもらっている」、「仕事で実績を出すうえで、聞く力・雑談力が大切。雑談をする中でお客様から悩みを打ち明けられ、それが実績につながることもある。雑談力を養うためには情報収集が必要で、そのためには地元紙をしっかり読むことが役に立つ」、「いろいろな経験をするのは大切だが、時間の制約がありできることは限られる。しかし、読書することで、時間を使わずに様々な疑似体験をすることができる。疑似体験は雑談力にもつながるし、リスキリングもできる」と語った。

最後に、「民間企業の人材育成の実態が皆様のお役に立てば幸い」と述べ講演を締めくくった。



### <田村 元宏 氏>

田村代表は、はじめに、「リーダーシップは、目的地を示して連れていく人の能力であり、組織は目的地に向かう船である」と説いた。

そして、リーダーに求

められる資質として「認識力」「洞察力」「責任感(覚悟)」を挙げたうえで、溢れる情報の中から正しい情報を正しく受け取り、正しく本質を理解する。物事をしっかり観察し、本質を見抜く。観察力と広い視野を持ち、常識や思い込みに捉われないゼロベース思考をすることで、問題解決能力が高まる。仲間を信じて用い、責任は自分のものとして最後までやり切る。結果を出す覚悟が考え抜く力と諦めない力を生む、と語った。

続いて、リーダーに求められる能力は、①器量：不平不満や不安から行動せず、感情と思いやりから行動する。②思考：物事のタイミング、準備状況、チームの団結力等を考慮し、どうあれば良いのかを導き出す。③目的設定能力：理想、目的、行動指針

を設定する。④実行力・完遂能力：目標に向けて実行し完遂していく力。自分自身の現状を知ったうえで、どう進んでいくかの優先順位を考える。⑤管理能力：目標に対しておれない、自分の意志を組織のルールとして定めて暗黙知にしていく、の5つであると述べた。

次に、組織に必要な3つの要素として、「目的」「役割と連携」「蓄積と成長」を挙げた。そして、「目的を共有することは組織にとって最も重要で、これがないと組織は成り立たない。組織内で役割を持った個人が同じ目的を共有することで相乗効果が生まれ、強い組織になる。組織は、今までに蓄積した経験をベースに、今の時代に対応するために成長する。強い組織は有事に備えて常に備えを怠らない。組織は成長することでしか成り立たない。組織は生き物であり、組織の停滞は衰退と同じ」と説明した。

最後に、「リーダーシップも組織も全ては人間が関わっている。人間は意志と感情がある生き物。組織をつくるうえでは、仲間を大切に、目的地に向かう自らの意志に周りの感情をどう沿わせていくかが大切」と強調し、講演を締めくくった。

令和4年8月1日(月)、高松重信氏(みずほ証券(株)富山支店支店長)、田村元宏氏(株)タムラ設計 代表取締役)、廣田大輔氏(十全化学(株)取締役社長)、山本克也氏(株)インテック執行役員 北陸産業事業本部長)の4氏が、経験年数11年目の教員81名を対象とした中堅教諭等資質向上研修(富山市教育委員会主催)にて「組織のリーダーとは」「若手の育成」をテーマに講演を行った。



#### <廣田 大輔 氏>

廣田社長は、はじめに、現在までの経歴と途中で訪れた2つの大きな転機を紹介した。

1つ目の転機はビジネススクールでのチャレンジ。廣田社長は大学

卒業後県外メーカーに就職したが、経営者を志すようになり、学び直しのためにビジネススクールへの進学を決意した。入学後の説明会での「この期間を人生におけるROI(Return on Investment)がプラスになるよう頑張ってください」の言葉を受け、リターンを得るためには厳しい環境に身を置く必要があると考え、一番厳しい教官に師事することにした。厳しいが尊敬できる教官の下にはいい仲間が集まり、仲間たちと議論格闘することで、自身も大きく成長できた。今でも恩師や仲間たちと交流があり、自身の財産になっていると語った。

2つ目の転機が楽天(株)でのチャレンジ。廣田社長はビジネススクール卒業後楽天に入社し、10年間働いた。楽天で学んだ考え方のうち、今も大切にしているものをいくつか紹介した。「Get things done(や

り切ること)」と「0.1%の改善」。楽天では、達成率99%は未達扱いとなる。100%に向けて愚直に考え抜いてやり続け、諦めずに目標を達成することで、自信が生まれ、成長を実感する。成長を感じると新たな目標にチャレンジでき、そこで目標を達成して、また成長してのサイクルを繰り返す。0.1%の改善は小さく目に見えないが、365日積み重ねると44.4%という大きな改善になる。同様に、目の前の小さな目標を着実に達成していくことで、小さな積み重ねではあるが、大きな自信につながると述べた。

次に、会社を経営する中で心掛けていることとして、働くことの動機(楽しみ・意義・可能性・感情的圧力・経済的圧力・惰性)を6つ紹介したうえで、「前の3つ、直接的な動機はパフォーマンスのレベルを引き上げるが、後の3つ、間接的な動機はパフォーマンスを損ねる。直接的な動機をどう高めるかに力を入れている」と語った。

最後に、先生方に期待したいこととして、「子どもたちの可能性を信じ、成功を積み上げて自信を付けさせてほしい」「指示ではなく質問をすることで考える力を身につけさせてほしい」と熱く語って講演を締めくくった。



#### <山本 克也 氏>

山本執行役員は、まず、自己紹介として、自身の職務経歴を語った。技術職として入社した頃はコンピュータの機械や言語がどんど

ん新しく出てくる時代で、誰も使っていない機械・言語による開発に携わらなければならなかったこと、営業職への転換と東京へ転勤により、いろんな仕事・人との出会いがあり、様々な機会に恵まれたこと、大きなプロジェクトのマネジャーを任せられ、チームビルディングの難しさを実感したことなどなど、様々な経験を紹介した。

そして、これらの経験を踏まえて感じることで、「『いきなり』『初めて』なんて当たり前。全部自分でやろうとすると限界があるので、Know Who、誰に聞けばわかるのか、人脈を広げていくことが非常に大事。そして人に聞くためには、自らも何かを発信できなければならないので、強みを持つ必要がある。」「チャンスは誰にでも平等にあるが、チャンスを活かせるのはその備えをした者だけ」

「無駄な経験は1つもない。自分の気持ちの持ち方次第で、いろいろなものを吸収できる」と語った。

次に、自身がリーダーとして心がけていることを3つ紹介した。1つ目は、「Leadership=『指導力』ではなく『始動力』」。リーダーシップは、人の先頭に立って率先して動き出すこと。メンバーはリーダーの姿勢をしっかりと見ているので、動き始める力はリーダーシップとして大事な力である。

2つ目は、「関心をもって『観る』」こと。物理的に「見る」と、能動的・主体的に「観る」のは違う。観ることで気づきがあり、その気づきから次の行動計画、活動が生じる。

3つ目は、「『小さな成功体験』での人材育成」。失敗してもいいような環境をつくり、手を伸ばせば届くようなストレッチ目標を設定し、スモールスタートで反復的に何回も何回もやってみる。こうやって生まれた小さな成功体験を通じて、自信とやる気を引き出す。

最後に、「デジタル社会が急速に進むが、使うのは人なので、鍵になるのは人。人が重要。人を育てている教師の職に誇りをもってほしい」とエールを送り、講演を締めくくった。

## 2つの小委員会が始動

昨今の委員会数の削減に伴い、一部の委員会では委員の数が多くなり、発言の場が少なくなったとの意見がでていた。また、5月10日の委員長会議において来年度の委員会再編も考慮し、各委員会で委員会内に小委員会設置を検討することを決定。それを受けて、地

域創生委員会（山本覚委員長）が「とやま観光小委員会（委員長は山本覚氏）」、文化スポーツ委員会（島田好美委員長）が「アスリート支援小委員会（委員長は尾城敬郎氏）」を設立した。委員会内で委員を募集し、今般、第1回小委員会をそれぞれ開催した。

### — 第1回とやま観光小委員会 —

8月9日(火)、地域創生委員会は第1回とやま観光小委員会を事務局会議室で開催、委員・アドバイザー等13名が参加した。

冒頭、山本委員長が挨拶、その後、とやま観光小委員会で行う活動内容について説明した。

当小委員会では①来年3月に富山県におけるポストコロナ・ウイズコロナ時代の観光のあり方について戦略を提言すること、②1泊



山本委員長

2日のフィールドワークの実施プランの選定、フォトコンテストと観光冊子の作成を行う。

山本委員長は提言については、「地域資源のさらなる活用（映画誘致、音楽、伝統産業、ガラス、日本酒、ワイン）やマイクロツーリズム・スポーツツーリズム、富山版 MaaS の推進などを提言に盛り込む予定」と説明、その後、10月14日(金)～10月15日(土)に行く、1泊2日のフィールドワークについて、19名から応募いただいた27行程を委員・アドバイザーの方々と意見交換を行い、8行程を選定した。

### — 第1回アスリート支援小委員会 —

8月31日(水)、文化スポーツ委員会は第1回アスリート支援小委員会をインテックビル2階会議室で開催、委員・アドバイザー等24名が参加した。

冒頭、島田文化スポーツ委員長と尾城アスリート支援小委員長が挨拶、その後、島田委員長が小委員会設立の経緯について説明した。

その後、尾城委員長より2022年度の活動内容と今後の進め方について説明があった。尾城委員長は今後、委員を「実装チーム」と「座学チーム」に分け、「実装チーム」は受け皿探し、



島田委員長



尾城委員長

「座学チーム」は委員ならびに会員企業の取り組みを共有する活動をしていくことを説明した。

続いて、日本電気(株)北陸支社北陸官公営業グループ プロフェッショナル吉村尚人氏(元 NEC グリーンロケッツ所属)



講師 吉村 尚人 氏

が「元ラグビートップリーグ選手のセカンドキャリア体験談」と題し講演。スポーツ選手は①目標設定と行動計画の手法を体得している、②競技中コンマ何秒での意思疎通が必要であり、コミュニケーション能力は高い、③目標に対し、「誰が」、「いつまで」、「何をするのか」の判断能力が備わっており、企業が求める人材に合致していることを強調した。講演後、活発な質疑応答がなされた。



## 「私の休日」 ～『ものづくり』で乾杯！～

中川 雅 弘

(株式会社 KEC 代表取締役)

前職では金融機関に長年勤務し『ものづくり』には全くというほど縁のなかった私が、電気機器設計製造業を営む当社に入社し、早いもので7年目となりました。金融機関勤務時代には様々な業種を担当してきましたが、当時から製造業『ものづくり』の企業に一番関心があり、応援してきました。しかしながら、自分自身で『ものづくり』をすることはほとんどなく、そんな私が『ものづくり』に感化され近年は自分なりに勤しんでいます。

私は前職からお付き合いのある知人の別荘(岐阜県高山市)に、約10年前から毎年1～2回は休日にお邪魔しています。コロナ禍も3年目となり自粛生活が続く中、ここ数年は年4～5回とお邪魔する回数がどんどん増えてきています。年齢・職業も違う気の合う男3人で集まり、持ち寄った北陸の新鮮な海の幸や地元高山のお肉、山の幸でカルパッチョ・アクアパツァ・グラタン・ローストビーフ、魚の煮付け、サラダうどん等思い思いの大胆な『男の料理』を作り、これも持ち寄った美味しい日本酒・ワインを飲みながらワイワイガヤガヤと時間が経つのも忘れ、半日にも亘るロングラン食事会?を毎回のように楽しんでいます。

一昨年秋、シーズン最後の集まりで食事会?をしていた時に、「翌年は春からピザ窯を作り、ピザを焼こう。どうせ作るなら本格的にアーチ型のピザ窯を作ろう。」という話になりました。そして昨年、シーズン最初である春の大型連休に集まり『ピザ窯』作りを開始、紆余曲折苦労はいろいろありましたが夏にはアーチ型のピザ窯を完成させました。もっとも大変なのはここからで、ピザ窯の温度を300℃まで上昇させるには薪をどんどん焚いて必死に扇いで約1時間半、ピザの焼き時間は僅か1分半～

2分と使用する薪の量、費やす時間を考えると焼き上がったピザは何と贅沢なピザでしょうか。火起こしの苦労もなんのその、毎回美味しくいただいています。

今年も春の大型連休に3人で集まり、いつものように贅沢なピザと大胆な『男の料理』、美味しいお酒・ワインを堪能してきました。食事会?の中で、「夏といたらやっぱり流しそうめん! 次回は竹で流しそうめん台を作り、流しそうめんをやろう。」という話になりました。竹は別荘の主が事前に準備しておくことで話が決まり、『流しそうめん台』作りを開始、苦労に苦労を重ねこの7月には全長約10mにも及ぶ流しそうめん台を完成、高山の冷たい水で流しそうめんを美味しくいただきました。今シーズン最後の秋にはピザ窯で『パン』作りに挑戦することになっています。

『男の料理』『ピザ窯』『流しそうめん台』を果たして『ものづくり』と言えるのかどうか微妙なところですが、私はこのような『ものづくり』で過ごす休日を大いに楽しんでおり、仲間といつまでも続けていきたいと思っています。

『ものづくり』で乾杯!  
素敵なお仲間へ感謝!



男の料理  
(ピザ・鯛のアクアパツァ・グラタン)



完成したアーチ型ピザ窯

(次号は株式会社エムダイヤ代表取締役の  
森 弘吉 様です。)

# 活動報告

7月1日～8月31日

## ○幹事会・定例会等

開催日時・場所	内 容	出席者
7月27日(水) 16:30～18:30 ホテルグランテラス 富山	7月幹事会・会員定例会（文化スポーツ委員会主管） 講師：NSGグループ 会長 （株）アルビレックス新潟 取締役会長 池田 弘 氏 演題：「スポーツを通じた地域活性化」	約120名

## ○委員会

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
7月8日(金) 11:30～13:00 事務局会議室	企業経営委員会 第11回正副委員長会議	・当面の活動スケジュールについて ・景気定点観測アンケート調査について	8名
7月14日(木) 氷見市、南砺市	第10回地域創生委員会 (第一弾)	県内視察 SAYS FARM ワイナリー見学 トレポー(株)見学	19名
7月26日(火) 17:00～20:10 とやま自遊館	第5回人財活躍委員会	・講演会（三部構成） ■第一部 講師：(公社)経済同友会 会員業務部 マネジャー 宇佐見 俊彦 氏 演題：『ワーケーションを呼び水とした関係人口の創出に向けて～ワーケーションの概況と地方自治体・地域への要望～』 ■第二部 講師：(株)日本政策投資銀行 北陸支店 副調査役 宮原 吏英子 氏 演題：『北陸地域における「新しい人材シェア」のあり方～富山型ワーケーションのすすめ～』 ■第三部 講師：高岡市未来政策部 企画課 副課長 吉本 恭子 氏 演題：『地域課題で外部人材を惹きつける～富山県高岡市の取組み事例～』	14名
7月27日(水) 11:00～12:45 事務局会議室	教育問題委員会 第6回正副委員長会議	・第5回教育問題委員会（8/25「第1回県教育委員会との意見交換会」）について ・県外視察(青森・関西方面)について ・課外授業、研修講師派遣について ・10月会員定例会主管について ・「第2回県教育委員会との意見交換会」について	10名
7月28日(木) ～29日(金) 広島県、山口県	企業経営委員会	第10回ごきげんよう職場訪問(県外視察) ・マツダミュージアム ・原爆ドーム・広島平和記念資料館 ・(株)日立製作所笠戸事業所 ・旭酒造(株)（瀬祭の蔵元）	12名
8月3日(水) 氷見市、南砺市	第10回地域創生委員会 (第二弾)	県内視察 SAYS FARM ワイナリー見学 トレポー(株)見学	11名

開催日時・場所	委員会名	内 容	出席者
8月9日(火) 15:30~16:00 事務局会議室	地域創生委員会 第8回正副委員長会議	・今年度の取り組みについて	6名
8月9日(火) 16:00~18:00 事務局会議室	第1回とやま観光小 委員会	・フィールドワーク・プランの選定に ついて	13名
8月23日(火) 17:00~18:30 ホテルグランテラス 富山	第8回企業経営委員会	SDGs事例発表会 「富山県SDGs宣言」制度の概要説明 講師：富山県知事政策局成長戦略室 戦略企画課長 鳥田 太樹 氏 SDGsの取組み事例発表 ■発表者： 山田工業(株) 代表取締役社長 山田 恵子 氏 北陸コカ・コーラボトリング(株) 代表取締役専務 浅野 弘昭 氏 (株)富山銀行 代表取締役頭取 中沖 雄 氏	45名
8月25日(木) 14:00~15:30 富山県農協会館	第5回教育問題委員会	第1回富山経済同友会教育問題委員会 と県教育委員会の意見交換会 ・小中高生のキャリア教育について ・教職員の研修について	委員17名 県教委 7名
8月31日(水) 11:00~12:30 インテックビル2階 会議室1	第1回アスリート 支援小委員会	小委員会設立の経緯と意義について 2022年度の活動内容、今後の進め方について セカンドキャリア体験談について 講師：日本電気(株)北陸支社 北陸官公営業グループ プロフェッショナル 吉村 尚人 氏 (元NECグリーンロケッツ所属) 演題：「元ラグビートップリーグ選手 のセカンドキャリア体験談」	24名

### ○課外授業講師派遣

開催日時	学 校	対 象	講師・演題
7月13日(水)	富山県立富山商業高校	3学年273名	石橋 隆二 氏 「社会貢献としての仕事および働く うえで必要な資質・能力」
			市森 友明 氏 「仕事は、社会貢献とお金の両立。 そしてそのための学習」
			碓井 一平 氏 「富商の伝統は社会で役立つのか。 ほんとのところ」
			福崎 秀樹 氏 「VUCA を生き抜く」
			牧 真奈美 氏 「介護職の役割、社会人として必要な コミュニケーション能力」
			森 弘吉 氏 「これから社会人になる皆さんへお伝 えしたい事」
			遊道 義則 氏 「生きるということ 働くということ」

## ○その他の会合

開催日	内 容	場 所	出席者
7月3日(日)	第40回海外経済視察参加者説明会	タワー111ビル 2階会議室	19名
7月12日(火)	第38回富山家庭裁判所委員会	富山地方家庭 裁判所大会議室	有藤事務局長
7月12日(火)	第19回とやま子育て家庭応援企業・ 団体連絡会議	オンライン開催	寺西主席経済 交流員
7月14日(木)	令和4年度富山“Re-Design”ラボ開講式	富山大学黒田講堂	梅野事務局次長
7月24日(日)	渡辺守人氏富山県議会議長就任を祝う会	ホテルニュー オータニ高岡	牧田代表幹事
7月26日(火)	令和4年度富山県県産材利用促進会議	高志会館	稲田常任幹事
7月28日(木)	令和4年度運河のまちを愛する会総会	とやま自遊館	中尾特別顧問
7月28日(木)	小・中・県立学校3年次校長研修会(講師)	富山県民会館	高瀬教育問題 委員長
7月30日(土)	第4回とやま世界こども舞台芸術祭 (PAT2022) オープニング公演・開会式	オーバードホール	塩井代表幹事
7月31日(日)~ 8月7日(日)	第40回海外経済視察	アメリカ合衆国 (オレゴン、 サンフランシスコ)	26名
8月1日(月)	富山市中堅教諭等資質向上研修(講師)	Toyama Sakura ビル	高松 重信 氏 田村 元宏 氏 廣田 大輔 氏 山本 克也 氏
8月23日(火)	県立学校校長研修会(講師)	富山電気 ビルディング	高林副代表幹事
8月23日(火)	令和4年度キャリア教育指導者養成研修 (講師)	高志会館	伊東 潤一郎 氏 稲田 祐治 氏 尾山 謙二郎 氏 川合 紀子 氏 丹羽 誠 氏 村尾 于尹 氏
8月25日(木)	第40回海外経済視察反省会	事務局会議室	9名
8月28日(日)	「同友会の日」富山GRN サンダーバーズ戦	県営富山野球場	約60名
8月29日(月)	第40回海外経済視察事後検討会	富山県民会館	20名

# 会員の入退会

(7月幹事会)

1. 最近思うこと  
(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)
2. 生活信条(座右の銘等)
3. 趣味

## 入会



い の たか のり  
飯野高騎  
(株)かんぽ生命保険  
富山支店長  
(紹介者:大橋聡司氏)

1. 「お客さまから信頼され、選ばれ続けることで、お客さまの人生を保険の力でお守りする」という社会的使命のもと、お客様のお役に立てるよう行動してまいります。
2. 粉骨砕身
3. スポーツ観戦



う え き りょう  
植木 亮  
弁護士法人霞ヶ関総合  
法律事務所  
代表社員・弁護士  
(紹介者:牧田和樹氏)

1. 事業価値の創造・向上を共に見据える良きパートナーとして、ふるさと富山の皆様に真に質の高いリーガルサービスをご提供すべく、絶えず見識・技能を磨いていく所存です。
2. 順境でこそ楽観せず、逆境でこそ悲観しない/幸運は準備された心の中に宿る
3. 読書、スポーツ観戦、将棋



か とう ゆたか  
加藤 豊  
(株)西松ホテルマネジメント  
代表取締役  
(紹介者:牧田和樹氏)

1. 地域のリズムを乱さず、地域に認められ、根付き、愛されるホテル事業を通じて、富山県の成長戦略ウェルビーイングの一助となり、富山の方々のお役に立ちたいと思います。
2. 有言実行
3. スノーボード、野球、合唱、映画鑑賞



こ いずみ みのる  
小泉 稔  
(株)ホワイトベース  
代表取締役  
(紹介者:長谷川達雄氏)

1. 混沌とした世の中ですが社業をブレずに、目的を明確に進んでいきたいと考えています。
2. 捨てる神あれば拾う神あり
3. BMW、ゴルフ



さわ たに たけし  
 澤谷 健  
 (株)澤谷造園  
 代表取締役  
 (紹介者：大橋聡司氏)

1. 3年前からのコロナ感染症の流行により、社業及び日常生活に大きな変化がありました。日々変化する社会に柔軟な考え方や捉え方が必要だと考えています。
2. 一期一会
3. ゴルフ



しん めい こう じ  
 新名 宏次  
 (株)チューリップテレビ  
 専務取締役  
 (紹介者：中沖 雄氏  
 山野昌道氏)

1. 放送業に関わって32年。この度チューリップテレビでお世話になる事となり、初めての富山生活がスタートしました。TUTは勿論、富山県の発展の為にも尽力する所存です。
2. 前進あるのみ。七転び八起き。  
 どんな状況でも前向きに懸命に取り組みます。
3. 運動全般(ゴルフ、テニス、水泳他、)映画



たか た ひろし  
 高田 浩  
 バイホロン(株)  
 代表取締役  
 (紹介者：塩井保彦氏)

1. 我社は健康食品の受託専門の製造会社です。我社はこれからは「人」をつくっていきます。あわせて今まで以上に健康食品も作っていきます。
2. 志有るものは、事ついに成る。意思のある所に道が開ける。
3. ゴルフクラブいじり



たか ひら こう すけ  
 高平 公輔  
 新栄建設株  
 代表取締役  
 (紹介者：大橋聡司氏)

1. 経済弱体、少子化で混迷する日本。感染症と戦争が更なる閉塞感で覆う。IT技術の進歩は利害得失。かつての日本のように明るく、強く誠実な社会を回復すべく社業に邁進する。
2. 一隅を照らす
3. 釣り



とち たに よし たか  
 栃谷 義孝  
 (株)ヤングドライ  
 代表取締役  
 (紹介者：桶屋泰三氏)

1. 富山に生まれ、富山に育ち家業を継ぐも、一度もこのような経済団体で学んだことは無く不勉強でした。今回学びの機会を桶屋先生から頂きました。よろしくお願ひ致します。
2. 「事業の隆盛と人徳和合」、「知行合一」



よし た なお き  
 吉田 直樹  
 日本海ガス(株)  
 取締役  
 (紹介者：土屋 誠氏)

1. 環境問題や資源高騰など、エネルギー事業における課題は多いが、地域のお役に立てるように行動したいと思います。
2. 動機善なりや、私心なかりしか
3. ゴルフ、読書、お酒

## 交代



かい じょう まさ き  
開 上 真 樹

(株)北陸博報堂

取締役

(前：堀田裕介氏)

1. デジタル人材の育成が大きな課題だと考えています。データをどう活用し、新しい価値にしていくのか。目利き力と課題発見力が大切になると思います。
2. 特にはないのですが「毎日を大切に生きる」ことです。
3. ゴルフ、水泳



さか い もと なり  
酒 井 基 成

富士商事(株)

代表取締役

(前：酒井正人氏)

1. この数年間の間に大きく変容した私たちの生活様式・価値観に則した企業文化を醸成して、これからも地域の課題を解決できるように努めていきたいと思えます。
2. 謙虚な姿勢と感謝の気持ち
3. ゴルフ、散歩



た が じゅん じ  
多 賀 淳 二

北電情報システム

サービス(株)

取締役社長

(前：西野克彦氏)

1. DXにおいても、お客さまのニーズをしっかり捉え、お役に立てるサービスを提供する基本は変わりません。お客様から頼りにされるよう取り組んでいきます。
2. 自戒の念を込めて「明鏡止水」「至誠天に通ず」
3. 音楽鑑賞



かま ち まこと  
蒲 地 誠

(株)北日本新聞社

取締役社長

(前：駒澤信雄氏)

1. 全体知と部分知のバランスについて。あらゆる知識が細分化・断片化し、専門家ですら、実は知の一部分しか知らず、全体像を総合的に把握できていないことを危惧している。
2. 「あるべきようわ」。あるべき姿は何か自分なりに考え、その答えを生きていくこと。
3. 美術鑑賞、演劇鑑賞、ゴルフ



じょう がん ひろ ゆき  
上 願 宏 幸

(株)ホクタテ

代表取締役

(前：滝野弘二氏)

1. 社会環境の複雑性が増し、次々と想定外の出来事が起こり将来の予測が困難なVUCAの時代ですが、変化をチャンスと捉えて挑戦すると共に柔軟な対応を心掛けようと思えます。
2. 自分や周囲の人たちが健康で幸せな生活を送れるようにすること
3. 神社仏閣巡り、トレッキング、街歩き



た なか えいいちろう  
田 中 英 一 郎

田中精密工業(株)

取締役社長

(前：金森俊幸氏)

1. 事業環境の変化、社会課題にスピードと情熱を持って進めてまいります。
2. 未来は過去からの延長線
3. スポーツ観戦



たな だ かず や  
棚 田 一 也  
北陸電力送配電(株)  
取締役社長  
(前：水野弘一氏)

1. 電力の安定供給を通じて、北陸地域の発展に貢献する。
2. 奴隷の視点
3. ゴルフ、ワイン



なが いわ さとし  
永 岩 聡  
高岡信用金庫  
理事長  
(前：吉岡 周氏)

1. 理事長就任に当たって、地域の皆様から「たかしんが、この地域にあって良かった」と思っていただけのような信用金庫を目標とする姿に掲げ、経営に邁進していきます。
2. 経営のキーワードとして、「変革」を常に頭に入れていきます。
3. 映画鑑賞、読書、温泉旅行



やま ざき いさ し  
山 崎 勇 志  
北陸電気工事(株)  
常務取締役  
(前：池田俊彰氏)

1. 課題は次から次へと生まれてくる。いつの時代もチャレンジ精神を忘れず100年企業を目指して、今出来る事、やるべき事に組みたい。
2. 自分に優しく、人にも優しく。
3. 筋トレ。読書。米・野菜作り。



つか だ たつ や  
塚 田 達 也  
(株)神戸製鋼所  
北陸支店長  
(前：西 隆行氏)

1. 自国を守るために立ち上がるウクライナ国民の姿を見て、非常に考えさせられるものがあった。自分は甘いかと痛感した。
2. 継続は力なり。
3. YouTube でゴルフ動画を見ること。



ひがし やま しん や  
東 山 真 也  
西日本電信電話(株)  
富山支店長  
(前：宮崎俊之氏)

1. コロナ禍におけるオンライン・リモート化や企業、自治体のDXが進展する中、ICTで地域の課題を解決し富山を盛り上げるお手伝いをしたい。
2. 為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり
3. 城郭巡り

## 所属企業変更

### 山田 彰 弘 氏

(株)なんとエナジー 常務取締役企画部長

→ 日本海コンクリート工業(株) 取締役社長

## 退 会

赤 根 賢 治 日医工(株) 取締役  
大 沼 雅 也 (株)エスケーシー 顧問  
寺 林 敏 あいの風とやま鉄道(株)  
取締役会長

浜 田 満 広 (株)シキノハイテック  
取締役社長

宮 島 悦 郎 日本海コンクリート工業(株)  
取締役社長

(令和4年7月27日現在 会員数428名)

■第25回富山景気定点観測アンケート

# 2022年後半の景気見通しは「横ばい状態が続く」

企業経営委員会（伊勢徹委員長）は、本年7月に「第25回富山景気定点観測アンケート」を実施した。2022年後半の景気見通しや各社の業績予想、新型コロナの影響、原材料・エネルギー価格上昇による影響について180社（回答率44.8.1%）から回答が寄せられた。

## 主 な 項 目

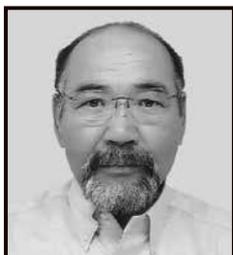
<p>◆2022年後半（7～12月）の景気見通しは？</p> <p>緩やかに拡大する 28%</p> <p>横ばい状態が続く 50%</p> <p>緩やかに後退する 19%</p>	<p>◆2022年7～9月期の売上高（予想）は？</p> <p>増収 36% 横ばい 45% 減収 19%</p> <p>◆2022年7～9月期の経常利益（予想）は？</p> <p>増益 27% 横ばい 47% 減益 26%</p>
<p>◆新型コロナによる、今後の収益への影響は？</p> <p>マイナス 18%</p> <p>ややマイナス 31%</p> <p>影響は中立 34%</p> <p>ややプラス 11%</p>	<p>◆原材料・エネルギー価格上昇による現時点の影響は？</p> <p>影響が大きい 46%</p> <p>ある程度影響がある 42%</p> <p>それほど影響はない 12%</p> <p>影響はない 0%</p>

## 今後の予定

開催日	対 象	行 事	場 所
10月3日(月)	正副代表幹事 交流委員長	経済同友会中央日本地区会議	福井県あわら市 (福井経済同友会主管)
10月18日(火)	幹事	10月幹事会	ホテルニューオータニ 高岡
10月18日(火)	全会員	10月会員定例会 講師：(株)ニッセイ基礎研究所 生活研究部 人口動態シニアリサーチャー 天野 馨南子 氏	ホテルニューオータニ 高岡
11月24日(木) ～25日(金)	全会員	第13回日本海沿岸地域経済同友会代表幹事 サミット	ホテルニューオータニ 鳥取(鳥取県経済同友会)
12月8日(木)	全会員	年末定例会・懇親会 講師：鹿島アントラーズ・エフシー 代表取締役社長 (株)メルカリ取締役会長 清水 文明 氏	ホテルグランテラス 富山
1月12日(木)	幹事	新年幹事会・富山県知事との昼食会	富山電気ビルディング
1月24日(火)	全会員	1月会員定例会 講師：(株)日本M&Aセンター 代表取締役社長 三宅 卓 氏	オークスカナルパーク ホテル富山

※新型コロナウイルス感染状況により、変更となる場合がございますのでご了承願います。

## 哀 悼



当会会員の鍋嶋太郎氏（有）ドリームファーム代表取締役）は令和4年8月3日ご逝去されました。享年71歳。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

### 〔表紙写真〕

### 第40回海外経済視察〔起業支援施設「PIE」〕にて

第40回海外経済視察では起業しやすい環境整備や学生起業の支援策等について理解を深めた。現地は起業支援施設や仕組みづくりが豊富であり、一行はクリエイター用の起業支援施設やポートランド州立大学の起業支援の取組みも視察した。写真は起業支援施設(PIE)の屋上にて、ポートランド市内を背景に撮影した1枚。

### 発 行 所

### 富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階  
電話(076)444-0660 FAX(076)444-0661  
e-mail:doyukai@po.hitwave.or.jp  
https://www.doyukai.org/



1972年9月、富山中部高校校庭にて（前列左から3人目が筆者）



## ああ白虎団！

株式会社トンボ飲料 取締役社長

翠田章男

「放課後の校庭を走る君がいた…」、村下孝蔵の名曲「初恋」はこの校庭から曲想を得たという話を、先輩のどなたからか聞きました。

この写真は高校3年生の体育大会の白虎団練習風景で、前列の左から3人目が私です。

コンクリートのギャラリースタンドは自分としては母校の原風景。写真ではスタンドの後ろにトタン屋根の自転車長屋があり、ポプラ並木らしきものがあり、その後ろに重厚感のある鉄筋校舎のエントランスがみえています。そしてグラウンドには懐かしの陸上ボートが置かれています。

母校では体育大会は最大行事で、当時は入学時のクラス分けがイコール団分けになっており、これは終生変わらず、この歳になっても同窓での自己紹介では名前の前に〇〇団を付けます。白虎、朱雀、玄武、青龍の各団で、応援合戦の出し物、デコレーションのネタなど斬新な演出を

やろうと3年生は必死に作戦を練ったものです。

当時の鉄筋校舎には何故か、我らが白虎団だけが昼なお暗き地下室に大本营なる作戦基地をもっていました。そこには他団員は当然のこと、たとえ白虎団員であっても3年生以外は自由な出入りは許されず、他団の情報等まことしやかに乱れ飛んでいたと記憶しています。

1934年（昭和9年）完成以来、富山市全域が焼失した大空襲にも耐えた思い出深き名物校舎は、この写真の3年後に幕を閉じます。

1972年は、1月に横井庄一元軍曹がグアム島のジャングルで救出され、帰国第一声は「恥ずかしながら…」でした。続いて2月には連合赤軍浅間山荘事件が起きています。

ちなみに、このころの代表的CMは三船敏郎の「男は黙ってサッポロビール」。

男らしいという言葉に勢いの宿る時代でした。